

4 技能(5 領域)を伸ばす授業実践の事例報告と留意点 (コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱの授業)

東京都立武蔵野北高等学校・主任教諭
石崎 陽一

コミュニケーション英語の授業は、大きく分けて、教科書（や、教科書を終えた後は補助教材）の内容自体を扱う**授業1**と、内容に関連するテーマでディスカッションを行う**授業2**に分けて実施しました。便宜上、以下の記事では現在形で述べたいと思います。

授業1 教科書の内容自体を扱う授業（週2コマ）

授業1には日本人教員がソロで行う授業Aとチーム・ティーチングで行う授業Bとがあります。

授業A 日本人教員が単独で行う授業（週1コマ）

- ① 単語クイズ（新たな課を扱う初回は1課分の概要把握）
- ② 予習用ハンドアウトを用いて教科書の内容（言語形式）の理解

授業B 日本人教員とALTとで行う授業（週1コマ）

- ① 教科書以外の英文素材（長文）の聴解
- ② 前時で内容理解を済ませた教科書の英文素材を用いてphysical training
ア 音読練習
イ 英問英答（fact findingに加えて推測させる発問や意見を問う発問などを含める）
- ③ サマリースピーチ

授業2 教科書の内容に関連するテーマでディスカッションを行う授業（週1コマ）

授業2は日本人教員と（上記とは異なる）ALTとで行う授業です。

教科書（や、教科書を終えた後は補助教材）の内容に関連するテーマでYouTubeの映像を探し、ALTに英文を書き起こしてもらい、リスニングやディスカッションを行います。

使用する教科書は1課が4つのセクションから成り立っています。
これを2セクションずつに分け、2週にわたって上記の形態で授業を行います。
（場合によっては1セクションずつ扱うこともあります。）

家庭学習用課題

1課の終了後、家庭学習用にサマリーライティングを課します。
グラフィックオーガナイザーを参考にしながら書かせます。

ただし、授業中に(accuracyはいったん脇に置いた)サマリースピーチを2回させているので、accuracyに意識を持たせるため、必要に応じて本文を参照してもよいことにします。

優秀な作品を選んで(了承を得た作品を)クラス全員でシェアさせます。

授業1 教科書の内容自体を扱う授業

授業B 日本人教員とALTとで行う授業(週1コマ)について補足

- ② 前時で内容理解を済ませた教科書の英文素材を用いてphysical training
 - ア 音読練習
 - イ 英問英答 (fact findingに加えて推測させる発問や意見を問う発問などを含める)
- ③ サマリースピーチ

②のア(音読練習)について補足

既述のように、わたしは1課を前半と後半とに分けて扱っています。

1週目は前半の内容(言語形式)の理解とphysical trainingおよびsummary speech、関連テーマでYouTube映像の視聴、
2週目は後半の内容(言語形式)の理解とphysical training、関連テーマでディスカッション、最後に、自宅での課題として、summary writingという案配で、2週間(6コマ)で1課を進めます。

さて、まずは内容(言語形式)の理解をし、その後physical trainingを通じて内容(言語形式)の理解を深めた英文素材を用いまして、以下のような活動を行います。
これは、次に控えている英問英答の活動、およびsummary speechの活動への準備を目的としています。

- ① 英文素材(1週目なら前半、2週目なら後半)の全文が左面に印刷され、日本語訳が右面に印刷されている体裁のリーディング・シートを配布します。
(意味のチャンクごとに英日を対照させています。)
- ② その中の1つか2つ分のパラグラフで100 wordsくらいになる箇所を指定し、そこだけを、生徒が概ね覚えるまで、音読練習していきます。
- ③ まず、ALTの音読に続き、1回だけ、生徒にリピートさせ、全体練習をしていきます。
- ④ 次に、生徒へ4分を与え、日本語訳を見て英語が言えるようになるまで個人で練習をさせます。生徒はひたすら音読練習をします。
- ⑤ 4分後、覚えたかどうかを全体で確認します。いくつか方法を用意しています。
 - ア ALTが本文を音読し、生徒がリピート。
生徒にとって難易度低めのやり方です。
 - イ ALTが本文を音読し、生徒へ同時に言わせます。
いわゆるオーバーラッピングです。シャドーイングにしてもよいです。
生徒にとって難易度中程度のやり方です。
 - ウ 日本人教師が日本語訳を言い、生徒にそれを口頭で英訳させていきます。
生徒にとって難易度高めのやり方です。
- ⑥ このようにして覚えたかどうかを全体で確認し、覚えた状態になったと判断できたところで、Q & Aのワークシートに記載した英問英答のうち、つい先ほど練習した箇所に相当する英問をクラス全体へ投げかけます。生徒を個別に指名し、教科書を見ずに英語で答えさせます。これをいくつか行います。音読の練習や英文の暗唱の意義を実感させる目的を持たせています。
- ⑦ 音読の練習は、生徒への負荷の点では、集中力の面で100語4分程度がちょうどよいのではないかと考えています。

ちなみに、リーディング・シートの残りは教室では練習しないのですが、習慣がつきますと、残された箇所は各自で自主的に練習するようになるようです。生徒の行動を観察していてそう感じました。考査前にわずかながら余った時間を自習時間に充てると、生徒はひたすら音読をするという現象が見られるようになりました。

②のイ（英問英答）について補足

音読シートを用いた音読練習と Q & A のワークシートを用いた英問英答の 2 段階でトレーニングを行い、直後に控えている **summary speech** の活動につなげる心算です。

Q & A のワークシートには **fact finding** 系の質問に加え、推測させる質問や意見などを問うオープンエンドな質問を含めてあります。

質問は 10 個用意します。information gap を原理に使用し、A さん向けの A 面には奇数番号の質問を 5 個、B さん向けの B 面には偶数番号の質問を 5 個印刷します。（裏面には Q の一覧と A の一覧とを刷り込んでおきます。）

指導手順

- ① Q & A のワークシートを配布したらすぐに半分に折らせます。A さんは A 面を、B さんは B 面のみを見るように指示します。
- ② 半分に折りますと、Q の一覧と A の一覧は内側に織り込まれます。これは授業中には見ないように指示します。自宅での復習用だからです。
- ③ まずは教科書を閉本させた状態で (C D の) 音声聞かせ、自分の質問（つまり、A さんなら A 面に記載の、B さんなら B 面に記載の質問）に対する答えのメモを取らせます。（音声は 2 回聞かせます。）
- ④ 音声を 2 回聞かせ終わったら、教科書を開本させ、ペアで Q & A をさせます。
- ⑤ 音声を聞いている最中はメモを取らせませんが、ペアワークが始まったら筆記用具を置かせ、何も書かないよう指示します。話すことに集中させるためです。（聞き手は先ほど作成した自分の解答を参照して相手の解答の是非をチェックします。）
- ⑥ また、自分のワークシートを相手に見せてはいけないと伝えます。口頭で伝わるまでがんばらせるためです。
- ⑦ あと、日本語を用いてはいけないと指示しておきます。
- ⑧ ペアワークが終了した頃合いを見計らって各生徒に前を向かせ、教師からいくつかの質問をします。全体に発問した後、個人を指名し、答えさせます。特に、推測させる質問や意見を問うオープンエンドな質問は必ず聞くようにします。

この後、**summary speech** の活動に入ります。

③（サマリースピーチ）について補足

指導手順

A パターン

- ①教科書を閉じさせ、A 4 版の 8 分 1 くらいの紙片を配布する。
- ②5 分間与え、本文を熟読し、**speech** の構想を練り、10 語をキーワードに抜き出して先ほど配布した紙片に書き取らせスピーチメモを作らせる。
- ③そのメモを基に、各自練習をさせる。
- ④5 分後、そのスピーチメモだけを見ながら、本文の要約を話させる。
- ⑤ペアを作らせ、じゃんけんをさせ、先攻を決める。1 人目の持ち時間は 2 分。
- ⑥誰に向かって何を伝えようとしているかを意識させる。
- ⑦話すときはできるだけ相手の顔を見ながら行うよう意識させる。
- ⑧話すときは文法のエラーや発音といった正確さには過剰にこだわらないよう意識させる。
- ⑨2 分後、交代させる。二人目も持ち時間は 2 分。
- ⑩このペアワークが終わったら、何人かに、クラス全体に向かってスピーチさせる。（生徒には、いつあたるかわからないよ、2 回以上あたることもあるよ、と伝えます。）
- ⑪一人目が終わるごとに、コメントする。とにかく褒める。語彙でも構成でも声でも表情でも、とにかく褒める。
- ⑫A L T がいる場合は、この⑪のコメントをしてもらう。
- ⑬書き出すキーワードは、英文の量や難易度に応じて、10 語より増やしてもよいし、時には「何を書いてもいい」という指示をしてもよい。全文書こうとする生徒もいるが、それだとほとんど力にならないし、5 分では準備できない、ということを、折に触れて、わからせていく。

上記指導手順の②～⑨の間は、わたしは、ただ、机間巡視をして、生徒を見守り、必要に応じて支援します。

Bパターン

- ①教科書を閉じさせ、生徒を指名し、覚えている語句を1つずつ言わせ、それを板書する。
- ②語句がある程度の数になったらやめて、生徒をペアにする。
- ③1分間などと時間を決め、ペアの一人に、黒板に書かれた語句を使って読んだ内容をペアの相手に向かって語らせる。
- ④教科書通りでなくて構わないので、できる限り覚えていることを伝えるように指示する。
- ⑤1人が終わったら、役割を交代し、再度、させる。
- ⑥ペアワークの終了後、何人かを指名し、クラスへ向かって語らせる。

サマリースピーチの活動の意図

- ・ 思いますに、わたしたちもニュースを読む（聞く）のに要点をつまんで理解しています。

新聞や雑誌の記事を漏れなく 逐一 記憶しているわけではありませんし、アナウンサーの読み上げる原稿を 一言一句 聞き取っているわけではありません。

聞いた話、読んだ話の要点をとらえる。そしてそれを自分の言葉で伝える。

こうした力はどんな仕事に就きましてもまず例外なく必要なものですし、キーワードを基に再生しようとする努力の過程でテキストを何度も真剣に読み返す（思い返す）ことになりますので、この活動を取り入れています。

いったん理解を済ませたテキストでも再生を意図してキーワードを10個ほど拾い出すプロセスにおいて、スキミング、スキミング、精読など、いろいろな力が養われると感じています。

アウトプットを意識するとインプットの質が高まる気がします。
授業にもメリハリがついてよいです。

- ・ 読めたことはそれなりに話せる力を生徒につけさせたい。
そういう思いからこの**summary speech**の活動を始めました。

結果としての**summary speech**の出来不出来はさておきまして、スピーチメモを作り各自練習する5分間、ものすごく集中した内容重視の読みにならざるを得ません。

そこがこの活動のよいところだと思います。

すなわち、要約する過程において全力で再三再四、どこが重要でどこが重要でないかを見極めるために本文を読み返すことになり、それが本文理解を深めることにつながるのです。

なお、生徒には、引用ではなく自分の英語で言い換えて構わないと言っています。

本文の英語を別の英語で言い換える要領をつかませるため、予習用ハンドアウトを用いて教科書の内容（言語形式）の理解」をする前時のフェーズにおいて、解説する際、わたしが、自ら、できるだけ本文の英語以外の英語で言い換えていくように努め、必要に応じてメモを取らせるように指示しています。

サマリーライティングについて補足

既述のように、コミュニケーション英語では、1 課を前半と後半とに分けて指導しています。

1 週目は前半の内容（言語形式）の理解とphysical trainingおよびsummary speech、関連テーマでYouTube映像の視聴、

2 週目は後半の内容（言語形式）の理解とphysical training、関連テーマでディスカッション、最後に、自宅での課題として、summary writingという案配で、2 週間（6 コマ）で1 課を進めます。

さて、教科書の内容について1 課分の学習を済ませた段階で、生徒にサマリーライティングを家庭学習として課します。グラフィックオーガナイザーを参考にしながら1 課分の要約を英語で書かせます。

サマリースピーチは前半の内容、後半の内容をそれぞれ要約し口頭発表する課題でした。生徒はこちらが驚くくらいよく取り組みますが、言いっ放し、やりっ放しにさせたくないと考えました。

しかし、かと言って、前半、後半とその都度書かせて提出させるのは生徒にとっても特に指導者にとっても負担が大きすぎます。（それはsustainableな仕組みではないと判断しました。）

また、然るべきタイミングで一度学習した内容の全体を振り返らせる機会を提供することは大切だと考えまして、1 課分のサマリーライティングという形を取っている次第です。

留意点

- ① 1 課分の学習を済ませた段階で実施する。
- ② A 4 の用紙を用い、グラフィックオーガナイザーを参考にしながら120語～150語程度の英語で1 課分の内容を要約させる。
- ③ 前半、後半のサマリースピーチの活動で自分が残したキーワードを参照して構わない。
- ④ ②や③のようにして書ければそれに超したことはないが、もし難しければ、教科書本文を見ながら作業をしても構わない。（もっとも、前半、後半のサマリースピーチの際はaccuracyはいったん脇に置かせていますので、本文を見ながらでもいいのでaccuracyに意識を持たせたほうがいいかなとは考えています。）
- ⑤ 土日をはさむように提出期限を設定する。（次回または次々回くらいで提出させる。）
- ⑥ 提出された作品にざっと目を通し、①構成、②パラフレーズの巧拙、③エラーの多少、この3点から優秀作品を選びます。これは、帰国生がダントツだと思ってる生徒が多いので、その思い込みを打ち砕きたいからです。特に、初めの頃は、意識的に、上手でないけどちゃんと読んで考えてやった生徒の作品をまずはピックアップするようにしています。
- ⑦ 優秀作品を（了承を得て）2 枚（～4 枚）ほど印刷して生徒へ配布します。
- ⑧ 配布後、6 に記した3つの観点から優秀作品についてどこがいいのかをコメントするわけですが、生徒が自分のものが配られるのを目標にしてくれるようになればいいと願っている次第です。また、作品に目を通す中でメモしておいたコモンエラーについても簡潔にコメントします。
- ⑨ 同一の課題に対して、仲間がどのような作品を残したかを知ることがやはり刺激になるようです。そして、それに対して学ぶべき点、改善すべき点をこちらが指摘し、それを学習者全員にシェアさせることで、指導効果の濃度も高まる気がします。
- ⑩ 120枚の作品を個別に添削、コメントするまでは手が回りませんし、書く意欲を減退させたくありませんので、事細かな添削はせず、気になる箇所に赤線を引くに留め、返却後、どうしても気になるところは聞きにきなさいと前もって声かけをしています。サインをして返却します。
- ⑪ 印刷をして配布する際は氏名も見えてしまいますので、あらかじめ名前を伏せてほしい生徒は氏名を裏に書いてもよいということにしています。

授業2 教科書の内容に関連するテーマでディスカッションを行う授業について補足

冒頭に記した通り、教科書（や、教科書を終えた後は補助教材）の内容に関連するテーマでYouTubeの映像^{*1}を探し、ALTに英文を書き起こしてもらい、リスニングやディスカッションを行う授業です。

ディスカッションの活動の目的

内容理解を深めるため、各課の前半、後半ごとに行うsummary speechを、ゴールではなく、通過点に置いています。

では、ゴールは、たとえば、これから何回かに分けて述べるディスカッションをひとつのゴールに据えている次第です。

すなわち、summary speechを積み重ねることにより、各課の最後に、それぞれの課の（関連）テーマについて各自の考えを英語でディスカッションできるようになるためにやっているという位置づけをしているのです。

生徒にもsummary speechはあくまでも通過点に過ぎないと繰り返し伝えています。

活動あって学びなし、に陥らぬよう、各活動に目的を持たせ、それを生徒たちに自覚させつつ、進んで行きたいと考えています。

留意点

チーム・ティーチングとは、文字通り、チームで行うものですので、ALTとのチームワークを大切にしています。

チームワークを育むためには、日頃からの意思の疎通が必要ですし、チームとしてのメリットを授業中において最大化するためには、特に、授業前の話し合い、打ち合わせが重要となります。

その点、本校は、コミュニケーション英語のディスカッションの授業に関わってくださる方が学校に常駐していますので、ありがたい環境にあると言えます。

とは言っても、校務等で忙しく、実際にはなかなか話し合い、打ち合わせの時間が取れないこともあります。時にはメールでやりとりをすることもあります。

そのような場合に備え、わたしは、短時間でしかも効果的に打ち合わせを済ませる工夫をしています。それは次のような工夫です。

- ① ねらいを明確にする
- ② 各活動の目的を明確にする
- ③ 日本人教師と外国語指導助手との役割分担を明確にする
- ④ ディスカッションの授業のフォーマットをある程度決めておく

1人で全クラスを教えるわけにはいきません。すなわち、複数の日本人教員で手分けして教えることになります。なかには外国人を交えたこうした授業が苦手な方も、いらっしゃると思います。そこで、④のように、できるだけベーシックな授業の流れを決めて基本フォーマットとし、うまくいった工夫、声かけなどに留まらず、失敗事例なども 逐一 教員チームで共有していきつつ、指導にあたることで、安心して授業へ臨んでいただくことができています。

*1 動画削除のリスクが常にあるのが注意点です。

ディスカッションの素材選び

自由にディスカッションをさせるのはよくないとわたしは考えています。

と言いますのも、経験的に、日本人同士で（特に英語で）自由に話し合わせると、同調意識を前提に互いがしゃべるため、主張の根拠がはっきりせず（時として主張すらなく）、「おままごと」的にただ時間を空費してしまうことが多いと感じられるからです。

そこで、教科書で読んだ（または読んでいる）内容に関連するテーマでディスカッションをさせようと思い、指導を進めています。

以下に素材選びの具体例をいくつか挙げます。

■教科書題材：もし世界が100人の村だったら
→討論の題材：もし日本が100人の村だったら

教科書が『もし世界が100人の村だったら』を改編した文章を読み、人類が直面する教育格差、富の偏在、環境破壊などについて理解を深め、これらの問題にいかに対応すべきかを考える課でした。統計資料を用いてその日本バージョンを書き起こし、ネイティブチェックにかけ、題材に使用しました。

■教科書題材：Greg Mortenson
→討論の題材：Malala To the U.N. (CBS News, via YouTube)
<https://www.youtube.com/watch?v=Eme25tIAdd0>

教科書がアメリカ人登山家が自分の命を救ってくれたパキスタンの人々に恩返しをするため、現地に学校を建てたという実話に基づいた課でした。教育の重要性を訴えるマララさんの国連演説の様態を報じるニュース映像を題材に使用しました。

■教科書題材：furoshiki
→討論の題材：Japanese cuisine added to UNESCO 'intangible heritage' list
(BBC News, via YouTube)
<https://www.youtube.com/watch?v=hxRA3msnZB4>

教科書が風呂敷の由来や歴史を知り、風呂敷が相手への思いやりを伝えるものであることや、環境保護に役立つものであることを学び、日本文化についての理解を深めるという課でした。和食がユネスコの無形文化遺産に登録されたことを報じるニュース映像を題材に使用しました。

■教科書題材：Borneo
→討論の題材：India has 70 per cent of the world's tigers, seeing 30% increase
(BBC News, via YouTube)
<https://www.youtube.com/watch?v=ad82pFzS2sA>

教科書がボルネオの自然保護に関して、その歴史的・文化的背景や原因について理解を深める課でした。絶滅危機のトラの個体数がインドで増加に転じた可能性を報じるニュース映像を題材に使用しました。

ディスカッションの授業（1週目）の基本フォーマット

別資料のハンドアウトの表面を用いた授業の流れを紹介します。誰でもがんばればできるようにしたいので、スモールステップに切っています。

- ①The ALT gets students to watch the video. Students just try to get the main idea. They try to listen and see what the video is about, where it is, what is happening, or what the news story is actually about.
- ②The ALT checks whether students get the main idea by asking some questions. The ALT adds more information about the story (if any).
- ③The ALT explains vocabulary; the JTE writes each word she is explaining on the board.
- ④The ALT gets students to watch the video again.

⑤The ALT gives the questions (about the video itself). The ALT reads each question twice, with enough pause between each, so that the students can take note. Here are the examples:

- What dangers do tigers face?
- How many tigers were lost in the last 100 years?
- How many tigers are in reserves in India?
- How much of the world's tiger population lives in India?
- Who else helped to save the tigers?
- What is banned in China?

⑥The ALT gets students to watch the video again.

⑦Students try to answer (or think more about) the questions.

⑧The ALT gets students to watch the video stopping it before each answer.

⑨Pair work for 5 minutes. In pairs, students ask their partner questions in English and then they check their answers by helping each other.

⑩The ALT asks questions again, and volunteers answer.

⑪Give students the script and they read it individually for 2 minutes.

⑫Students follow the script listening to the video.

⑬Students repeat sentence by sentence after the ALT.

ディスカッションの授業（2週目）の基本フォーマット

- ①ストーリーを思い出させるために映像を一度見せる。ハンドアウトのスクリプトを目で追いながら聞いてもよいことにする。
- ②意味の曖昧な箇所があれば尋ねさせる。
- ③内容に関する質問をいくつかして内容理解を確認する。
- ④次のような指示を出す。

- In the video, lots of people were trying to save the tigers and protect them, but why? So what I want you to do first is, in groups, try to think of all the ways that animals are useful or helpful to people. So, on this page, there are some pictures to give you some ideas, but try to think of as many different ways as possible so that, in 5 minutes, each group will tell me a different way animals are helpful. One group has already said something, you can't say the same thing.

⑤机をつけ、4名グループを作らせる。4名グループは年度当初に指定しておく。

各メンバーに番号を与えておき、毎回、番号で各グループのリーダーを指定する。

⑥5分後、各グループのリーダーはクラス全体へ向けてグループとして1つアイデアを紹介する。

⑦ALTと日本人教師で手分けしてそれをフレーズないし短文に要約して黒板へ 順次 書き留めていく。次は上の指示に応じてあるクラスで出されたアイデアです。

- seeing eye/guide dog
- transportation
- make us relaxed
- experiments
- give us food
- search for things They eat harmful insects
- help agriculture
- keep us safe
- We can play with them.

別のクラスで出されたアイデアに次のようなものがありました。

- Reindeers carry presents
- experiments
- Dogs can smell missing people.
- transportation
- They give us ideas.
- Chicken/turkey make Christmas happy
- messenger birds
- make us relax
- can play with animals

⑧全グループから発表が終わったところで次のような指示を出す。

- ・ There are lots and lots of different ways that animals help us, right? But in the video lots of people like guards and activists who are helping to protect and save the tigers. So the next thing you have to decide is does your group think it's important to help protect animals? And why? or why not? And you have to think of at least two reasons. I'll give you 5 minutes. Go.

⑨各グループのリーダーはグループとしての意見を代表してクラス全体へ発表する。

A L T はそれを言い換えて確認、必要に応じてやりとりをする。

⑩全グループの発表終了後、A 5 版の用紙を配布する。用紙には次のお題を印刷しておく。

- ・ Do you think animals should be treated the same as humans? Explain why, or why not?

⑪ 5 分与え、用紙へ意見を書かせる。

⑫用紙を回収する。

⑬添削を施しコメントを付して返却する。添削の基準としては、文意の理解に支障のある箇所を中心に赤を入れる。また励ましの言葉を必ず添えるようにする。生徒の記した作品を許可を得ていくつか紹介します。

- ・ Yes, because animals like fish or birds appeared on the earth before humans appeared. That is to say, animals are our ancestors. So, we should respect them.
- ・ Yes, I think so, because the importance of life is the same even if animals cannot live or speak or do something like humans. Animals have their own world, family, and feelings like humans. However, to treat animals the same as humans is difficult. What I say is just an ideal, but I hope that someday there will be fewer animals that are killed by humans prodigiously.
- ・ I don't think so, because animals are the enemy of human beings. They pretend to be our friends. Since long time ago, they have tried to kill people and eat people. Be careful, your pets are always watching for a chance to bite you too.
- ・ I think we should take good care of animals. But I don't think they should be treated the same as humans. There are many animals in the world. Some animals are big and others are very small. It is impossible to treat all of these animals the same as humans. This is the reason why I don't think animals should be treated the same as humans. I think it is important to coexist with animals.

以上の作品はすべて帰国生によるものではないのですが、ディスカッションの授業（1週目）とディスカッション（2週目）の授業で、アイデアのブレインストーミングを済ませ、そのテーマで話したいときに不可欠なボキャブラリーといったものを学んでいますので、それなりのものが書けているように思えます。

こうした優れた作品を(了承を得て)1枚のハンドアウトにまとめて配布し全員で共有します。

同一の課題に対して、仲間がどのような作品を残したかを知ることにはやはり刺激になるようで、優れた作品を記す生徒が入れ替わり立ち替わりするのが興味深いです。

ディスカッションをさせる際の工夫

各人に英語による発話を促す仕掛けです。

- ①まず、4名ないし3名のグループを作らせます。
- ②全体へお題を提示します。ある回の指示は以下の通り。

・ In groups of 4, try to think of some possible causes of the current water crisis.
Why do you think the world is running out of clean water?

- ③最初の1分間はpreparationの時間とし、各人が自身のアイデアを書き出します。
- ④1分後、各グループ内で各メンバーにAさんからDさん（3名のグループの場合Cさん）まで割り振らせます。
- ⑤1分間、Aさんがその場で立ち、グループの残りのメンバーに対して自身のアイデアを述べます。（時間が余ったら、時間になるまで、残りのメンバーが質問や促しをして内容を深めるよう指示をしておきます。）
- ⑥次に、Bさんが1分間、同様に、その場で立ち、述べます。
- ⑦以下、Cさん（、4名のグループの場合はDさん）まで述べていきます。
- ⑧各グループのメンバー全員が自身のアイデアを述べ終わるまでに日本人教師およびALTの方で各グループのメンバーのうち誰をリーダーに指定するか決めておきます。（黒板に記しておきます。）
- ⑨各グループのメンバー全員が自身のアイデアを述べ終わったところでリーダーを中心に1分間、各グループのアイデアのチェック（まとめ）をさせます。
- ⑩1分後、各グループのリーダーをその場で立たせ、挙手をして各グループで出たアイデアのまとめを全体に向けて言わせ、シェアします。（日本人教師またはALTは黒板に要点を摘記していきます。その際、必ず生徒の話した内容を復唱または言い直しをします。）
- ⑪各グループのリーダーによる発表が終わった後、次のお題を提示します。

・ What does your group think is the best solution to the water crisis, and why?

- ⑫以下、上の③と⑤～⑨の手順を繰り返します。

以上のように少し強制力を持たせたことで、英語をかなり活発に用い、自身のアイデアを伝えようとする姿勢が顕著に見られました。発言者を立たせたことで授業者もどんな英語を使っているのかモニターしやすくなる利点もありました。

ディスカッションをさせる上での問題点

- ・ 約40名というクラスサイズでは机間巡視による支援・指導に限界があり、全員が確実に活動を行っているかを確認することが極めて難しいです。
- ・ 約40名というクラスサイズでは、誤ったインプットを与えてしまう可能性があるにもかかわらず、各グループ内でどのような発話ややりとりがなされているかを逐次モニターし完全に掌握することができないため、時宜を得た適切なフィードバックを与えることが極めて難しいです。どんなに工夫をしても、結果的に、間違いっぱなしで終わらせてしまったり、言いたかったが言えなかった表現を取得させたりする機会を設けることができなかったりします。